

長崎県感染症発生動向調査速報

平成24年第6週 平成24年2月6日（月）～平成24年2月12日（日）

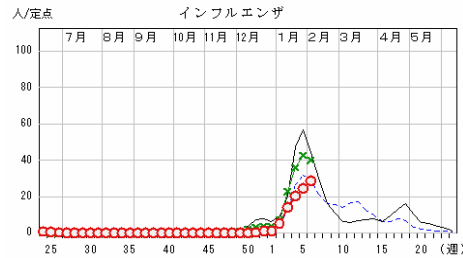
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第06週の報告数は1996人で、前週より293人多く、定点当たりの人数は28.51であった。

年齢別では、10～14歳（386人）、4歳（159人）、6歳（153人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、長崎市保健所（43.24）、対馬保健所（36.67）、県南保健所（36.13）が多かった。

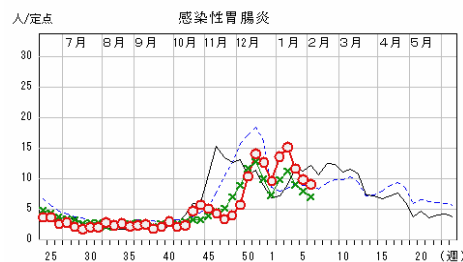


（2）感染性胃腸炎

第06週の報告数は398人で、前週より34人少なく、定点当たりの人数は9.05であった。

年齢別では、10～14歳（63人）、1歳（60人）、5歳（38人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、県南保健所（14.20）、西彼保健所（13.75）、上五島保健所（13.50）が多かった。

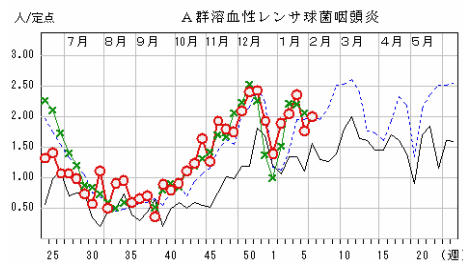


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第06週の報告数は88人で、前週より10人多く、定点当たりの人数は2.00であった。

年齢別では、5歳（14人）、3歳（13人）、10～14歳（13人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり人数は、県中央保健所（4.50）、対馬保健所（4.00）、県南保健所（2.60）が多かった。



○ 当年(長崎県) ー 前年(長崎県)
× 当年(全国) - - 前年(全国)

☆トピックス・季節情報

【インフルエンザ】

長崎県における第6週の報告数は1996人で、前週より293人増加して、定点当たりの人数は28.51と前週の24.33を上回り、県下全域から報告が上がっています。本県では第2週から報告数が急増し始め、長崎地区（43.24）、対馬地区（36.67）、県南地区（36.13）は前週より報告数が増加して、警報レベル「30」を超えています。佐世保市では若干の報告数の減少はみられるものの、依然として警報レベルにあります。また、佐世保以外の地区においては、前週の報告数を上回っており、注意報レベル「10」を超えています。県全体で見ても第3週から注意報レベルの状態にあり、今週も定点当たり報告数の上位3疾患のトップとなっています。県下では第1週から今月15日までの間に、幼稚園や保育所、小、中および高等学校等において2校（園）が臨時休業、48の学年閉鎖及び73の学級閉鎖が報告されています。全国的には本年、A香港型が大流行しておりますが、長崎県下では、昨年本土地区の学童を中心に他府県に先駆けてA香港型の比較的大規模な流行が起きましたので、昨年以上の流行にはならないものと予想されます。（図参照：☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況 インフルエンザ）例年どおりに推移すると現時点がA型流行のピーク時になりますが、今後の動向に注視し、感染予防に心掛けましょう。

当研究センターに搬入された患者の検体について検査を実施したところ、殆どがA/H3N2、いわゆるA香港型のインフルエンザウイルスの遺伝子が検出されており、一部の検体からB型の遺伝子も検出されていることから、県下で流行しているインフルエンザは、他県と同様、A香港型が主流で、シーズン後半に流行するB型が低頻度に混在して流行している状況であると推測されます。

インフルエンザには抗インフルエンザ薬がありますが、予防にはワクチン接種が有効な手段の一つです。まだまだ寒い日が続いています。小さいお子さんや高齢者はもとより、受験シーズンでもありますので、受験生の方は寒さ対策を行い体調管理に気をつけましょう。また、外出からの帰宅時にはうがい、手洗いの励行、マスクなどによる「咳エチケット」で積極的な感染防止に努めましょう。

**県内の保健所別定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況(インフルエンザ)
長崎県(2012年第06週)**

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前	
	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況
佐世保市	22.73	○	29.91	○	35.91	○	26.45	△	5.91	-	0.82	-
長崎市	43.24	○	41.35	○	37.65	○	22.47	△	8.24	-	2.41	-
壱岐	17.33	△	4.33	-	3.33	-	7.67	-	2.67	-	1.00	-
西彼	22.67	△	16.83	△	11.50	△	4.33	-	1.33	-	0.17	-
県央	23.00	△	18.70	△	8.30	-	3.20	-	1.80	-	0.20	-
県南	36.13	○	23.50	△	14.88	△	8.88	-	7.75	-	1.88	-
県北	20.50	△	13.25	△	5.50	-	5.00	-	3.75	-	1.25	-
五島	10.80	△	8.60	-	6.20	-	8.20	-	1.00	-	0.20	-
上五島	19.33	△	9.67	-	11.33	○	36.00	○	11.33	△	0.67	-
対馬	36.67	○	19.00	△	4.33	-	0.33	-	-	-	1.00	-
長崎県	28.51	△	24.33	△	20.23	△	14.21	△	5.15	-	1.15	-

警報・注意報レベルの基準値(定点当たり報告数)

- :警報レベル
△:注意報レベル
-:警報・注意報なし

警報レベル		注意報レベル
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10

【感染性胃腸炎】

長崎県における第6週の報告数は398人で、前週より34人減少し、定点当たりの人数が9.05で、全国定点当たり人数(7.06)を若干上回っています。インフルエンザの流行の影に隠れていますが県下全域で報告が上がっており、今後の動向に注視していく必要があります。

感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くが1~2歳の乳幼児が占めています。原因はロタウイルス、ノロウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、細菌性の場合もあります。ロタウイルスについては昨年7月にワクチンが製造承認されており、予防することが出来ます。小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

【A群溶血レンサ球菌咽頭炎】

長崎県における第6週の報告数は88人で、前週より10人多く、定点当たりの報告数は2.00でした。佐世保、上五島地区を除く地域で報告があり、前年に比べて長崎県の報告数は増加傾向にあり、注意が必要です。

本感染症の好発年齢は5~15歳で、鼻汁・唾液中のA群溶血性レンサ球菌の飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1~4日で、突然の発熱(高熱)、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により多くは1~2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早期に医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

